

あらゆる会社姿勢と一部社友会による春闘破壊に立ち向かい

要求満額回答を全青年部員でたたかい取る青年部声明！！

J R東日本は1月31日に第3四半期決算を発表し、営業収益は2期連続の増収、第3四半期決算としては3期ぶりに全ての利益が黒字転換した。これは、私たちが日々の業務や施策を担い、安全安定輸送を職場からつくり出し、収益を上げてきた努力の結果である。青年部員からは「本来業務を行いながら、柔軟な働き方に適応し、多くの業務に取り組んでいる」「これだけ働いているのに賃金が上がらない」「感染への不安も抱えながら業務を遂行し、黒字にも貢献してきた」と声が出ている。また、物価上昇率は4.2%となり、昨年からこれまでにかけて多くのモノが値上がりしている。電気料金についても多くの電力会社で値上げが検討され、青年部員からは「生活に関わる全てのモノの値段が上がっている」「節約も限界、もう減らせるところがない」と悲痛な声が出されている。会社は私たちの生活苦に耳を傾け、この間の働き度と黒字化に向けた努力に報いる回答をすべきである。

年末手当のたたかいでは、組合員・未加入者から6,000件を超える声を集約し、交渉の中で会社に訴えてきたが、一部の社友会会員によってその声はかき消されてしまった。しかし、未加入者アンケートでは、7割を超える仲間から「会社回答に納得感はない」と出され、社友会による意見交換会などで出された声とは大きく乖離する職場実態である。また、年末手当交渉の中で会社は、若手の離職について課題であるとしながらも、離職の大きな要因である「賃金の低下」よりも「働きがい」を重視する姿勢であり、本気で離職防止に向き合っていると到底思えない。年末手当のたたかいにおける怒りと悔しさをバネに、現在の会社姿勢を明らかにし、会社と社友会がつくり出す社内世論を打ち破り、騙されない青年部員・未加入者を増やしていくためにたたかいをつくり出していく決意である。

そのような中、ある支社の社友会がベースアップについて「一律1,000～3,000円（係数2補填相当）」「毎年実施ではなく、数年に一度や役割によりボリュームを増やす」という掲示が出され、職場の青年部員は、「何を基準にその数字を出しているのか分からない」「交渉もしていないのに勝手に決めるな」「それで生活が安定すると思っているのか」と怒りの声が出されている。また、社友会に対する未加入者の声は「社友会に所属し、相談したのに何もしてくれない」「社友会は話を聞いてくれないし、そのような場もない」「意見交換会が開催されていることも知らないし、誘いもない」「低額相場づくりするな」など本音を掴んできた。社友会組織は労働組合でない。だから、会社と交渉を行うことも出来ない。そもそも本音すら語られず、さらには、会社がつくり出す社友会が、私たちの意見を会社にぶつけられるわけがない。社友会の存在と行為は、春闘の柱である「統一要求・統一闘争」の阻害であり、春闘破壊と言わざるを得ない。

現在、私たちの命をも奪いかねない事象が発生している。国府津運輸区で発生した懲罰的日勤教育は2ヶ月以上が経過した現在も続いており、当該組合員は自殺を考えるまでに追い込まれた。しかし、会社は団体交渉の中で日勤教育を全面支持する姿勢を示し、「熱のこもった指導」「ハラスメントという認識は全くない」と無情にも言い放った。宇都宮運輸区においても長期の日勤教育の中でハラスメントが行われ、当該組合員は体調を崩し、現在も職場復帰できていない。その日勤教育は、乗務復帰させようとしている内容とは到底思えるものではない。同様の日勤教育は過去に盛岡支社管内の職場でも行われており、青年部員からは「福知山線脱線事故を彷彿させる」「社員を追い詰めるばかりで事故の原因究明がされていない」「この対応で事故を防げと思っているのか」と怒りの声が出ている。J R東労組青年部は働く者を第一とせず、自殺一歩手前までに追い込み、かつ反省ではなく、適正と評価してしまう企業体質に対し、断固として許さずたたかいていく。

J R東労組青年部は、組合員・社員の生活実態や労働実感に耳を傾けず、働く者の想いに立たない会社姿勢を断固許さず、最後まで諦めずたたかいをつくり出す。そして、多くの青年部員・未加入者と対話し、傲慢な経営姿勢に立ち向かう仲間を増やしていく。今こそ、J R東労組組織の強化・拡大を推し進め、多くの仲間と結集し、要求満額回答と私たちの安全・健康・ゆとりを全青年部員一丸となってたたかい取る決意である。

2023年 2月26日
東日本旅客鉄道労働組合青年部
中央常任委員会

23春闘勝利のため、多くの仲間の結集をつくり出そう！

